

令和4年度 茨城県立結城第一高等学校 自己評価表

目指す学校像		校訓「自彊不息」（じきょうやまず：自ら努めて励み、事に当たっては全力を尽くして怠らないこと）を精神的支柱とし、知育・徳育・体育の健やかな成長を図り、社会性や公共心を備えた地域社会に貢献できる有為な人材の育成に努める。 (1) 教育内容や指導方法等の工夫・改善により基礎・基本の確実な定着を図るとともに、自ら学び自ら考え実践する力を育成する学校 (2) 基本的生活習慣の確立を図るとともに、道德教育・特別活動等を通して、規範意識や豊かな心を育成する学校 (3) 特別活動や体験学習等の活性化により、健やかな心身を育成する学校 (4) 生徒一人一人の望ましい勤労観・職業観の醸成を図り、希望進路の実現を目指す学校 (5) 保護者・地域社会等と連携・協力しながら、常に教育活動の改善・充実を図る学校			
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標		達成状況
校訓である「自彊不息」を目標に、教職員及び全生徒の共通理解のもと、教育活動を実践した結果、落ち着いて授業及び学校行事等に取り組む生徒が増えた。 生徒一人一人の心身のさらなる成長と希望進路の実現に向けて、引き続き基礎・基本の確実な定着及び基本的生活習慣の確立に努め、地域から愛され、信頼される学校づくりに邁進していく。		(1) 基礎・基本の確実な定着 学習意欲の向上	① 教育内容や指導方法等を工夫・改善し、きめ細かな個に応じた「わかる授業」を実践する。 ② 各自の目標設定を明確にし、達成に向けて努力することを支援する。 ③ 反復学習等により、基礎・基本の確実な定着を図るとともに、A L型授業を取り入れ、生徒が自主的・意欲的に取り組む態度を培う。 ④ 自分の考えを整理し記述する（書く）、伝達する（話す）、他の発言を傾聴する等の指導を充実させ、各自の言語活動や自己表現能力を育成する。 ⑤ 個別指導・習熟度別指導・課外指導等を通して、学習への自信や学習意欲の向上を図る。 ⑥ 予習・復習や課題等を主体的に行うことを通して、学びの習慣化を促す。		A
		(2) 基本的生活習慣の確立 規範意識や豊かな心の育成	① 服装頭髪指導を通して「制服を美しく着る」「身だしなみを整える」ことを強化する。 ② 授業や集会時における心得として、礼法や話を聞く姿勢を育成する。 ③ 挨拶や言葉遣い・態度等の礼儀作法を身に付けさせる。 ④ 公共マナー、社会規範や校則等のルールを遵守する意識を培う。特にSNSについて正しい理解と使い方を習得させる。 ⑤ 道德教育や講話、読書等を通して、人を思いやる心、協力しあう心、感動する心等の豊かな心を育成する。 ⑥ 個別面談を密にし、保護者・スクールカウンセラー・外部機関等と連携・協力して、学校生活や進路、心の問題等への対応を適切に行う。		A
		(3) 特別活動・体験活動等の活性化	① ホームルーム活動や部活動、生徒会活動等の集団活動を通して、心身の調和と個性の伸長を図るとともに、他を思いやり尊重する等の社会性を育成する。 ② 文化祭や体育祭、クラスマッチ等の学校行事を通して、協力する心や個々の責任感を育む。 ③ 生徒の自主的・自発的な活動を促進し、生徒会活動や部活動の活性化を図る。 ④ キャリアパスポートを用いて生徒と対話的にしかかわることによって、生徒の成長を促し、自己実現に向けて系統的な指導を行う。		B
		(4) 希望進路の実現 望ましい勤労観・職業観の醸成	① 早期から進路意識の醸成を図るとともに、自己の適性を理解することにより、進路選択でのミスマッチや早期離職の防止に努める。 ② 生徒の進路希望を把握し、生徒一人一人の能力や適性に基づいた計画的なキャリア支援をする。 ③ 外部講師による講演会や企業見学・インターンシップ等を通して、望ましい勤労観・職業観の醸成を図る。 ④ 社会人としてふさわしい言葉遣いや礼儀作法、身だしなみを身につける ⑤ 面談や面接指導を通して、生徒の進路希望の実現を支援する。		A
		(5) 保護者や地域社会等との連携・協力	① 学校の情報を積極的に、かつ分かりやすく発信するとともに、保護者や地域社会等からの意見等を集約・検討し、教育活動の魅力を高めるなどして、一層の理解と協力を得られるようにする。 ② 中学校訪問を密にし、情報交換を通して連携・協力を依頼し、中学校や地域社会等に信頼される学校を目指す。 ③ ボランティア活動や地域の行事には積極的に参加し交流を深め、地域社会に根ざした学校を目指す。		B
		(6) 働き方改革	① 勤務時間を客観的に把握・集計するシステムを適切に運用する。 ② 業務の役割分担を見直す。 ③ 適切と言えない業務等を削減する。（部活動に係わる業務全般を含む。）		B
三つの方針		具体的目標			
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グ`ラデ`ュレーション・ポリシー)	校訓「自彊不息」（じきょうやまず：自ら努めて励み、事に当たっては全力を尽くして怠らないこと）を精神的支柱とし、知育・徳育・体育の健やかな成長を図り、社会性や公共心を備えた地域社会に貢献できる有為な人材の育成に努める。 (1) 教育内容や指導方法等の工夫・改善により基礎・基本の確実な定着を図るとともに、自ら学び自ら考え実践する力を育成する学校 (2) 基本的生活習慣の確立を図るとともに、道德教育・特別活動等を通して、規範意識や豊かな心を育成する学校 (3) 特別活動や体験学習等の活性化により、健やかな心身を育成する学校 (4) 生徒一人一人の望ましい勤労観・職業観の醸成を図り、希望進路の実現を目指す学校 (5) 保護者・地域社会等と連携・協力しながら、常に教育活動の改善・充実を図る学校			
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	(1) 教育内容や指導方法等の工夫・改善を図るとともに、習熟度別学習や課外学習等のきめ細かな指導により、基礎・基本の確実な定着を図る。 また、AL型授業を推進し生徒の自主的・意欲的な学習態度を醸成し、学習意欲の向上を図る。 (2) 組織的かつ個に応じた生徒指導を行い、基本的生活習慣の確立を図るとともに、道德教育・特別活動等を通して規範意識を醸成し、豊かな心の教育を一層推進する。 (3) 特別活動や体験活動等の活性化により、精神と身体の健全な成長を図る。 (4) 各学年に応じた進路行事や資格取得指導等を通してキャリア教育を推進するとともに、生徒一人一人の望ましい勤労観・職業観の醸成を図り、希望進路の実現を目指す。 (5) 保護者・地域社会等との連携・協力のもと、情報交換や交流を密にしながら、地域に根ざした信頼される学校づくりを推進する。 (6) これまでの働き方を見直し、自らの授業改善に取り組むとともに日々の生活の質や教職人生を豊かにすることで、自らの人間性や創造性を高め、生徒たちに対して効果的な教育活動を行えるようにする。			
	「入学者の受け入れに関する方針」 (アド`ミッション・ポリシー)	○自分の能力を発揮し、進路実現を目指し、日々努力する生徒			
評価項目	具体的目標	具体的方策		評価	次年度（学期）への主な課題
教科指導	学習目標を明確にし、指導を工夫する。	生徒の習熟の程度を考慮した学習目標を設定し、計画に沿った「わかる授業」を展開しながら、各生徒の表現能力を育成する。 教員相互の学習指導の充実を図るために、教科間及び全職員対象に授業を公開し研修の場を設ける。		B	・新学習指導要領を鑑みて、教科全体でしっかりとした年間指導計画を策定する。 ・個別指導・補講等を実施し、各教科で個に応じた指導に取り組むことができた。引き続き内容の充実を図る。 ・ICTを活用した授業展開の工夫について、研修を設ける。
	授業態度の改善を図る。	指導に適した教育環境・授業に取り組む体制を整え、1時間1時間の授業の大切さを自覚させて積極的に臨ませる。		B	
		学習意欲や学力に課題のある生徒に対して、放課後の個別指導や長期休業中の補講を実施することにより学習意欲を喚起させる。		A	
	基礎・基本の確実な定着を図る。	国語科、社会科、体育科、英語科でティーム・ティーチングによる授業を、また数学Ⅰ・英語表現Ⅱで習熟度別少人数授業を展開し、基礎・基本の定着・応用力の向上を図る。 授業内容の確認課題・週末課題等に取り組ませ、家庭学習の習慣化を図る。		A B	
教科	国語	基礎・基本の確実な定着を図る。	生徒の実態に合わせた授業形態の実施や自作プリントの活用など、適宜授業内容を工夫する。更に、小テスト等を繰り返し実施することで基礎・基本の確実な定着を徹底する。 副教材「漢字練習帳」を活用し、長期休業期間の課題として設定した上で、定期的に漢字テストを実施し、基礎・基本の定着を図る。また、文章を書く機会を定期的に設け、表現力の向上に努める。	A A	・ICT活用を含む授業形態および発問等の工夫により、生徒の興味や関心を喚起しつつ基礎・基本の確実な定着を図ることができた。 ・外国人生徒や配慮を要する生徒への支援も視野に入れ、学習のステップ化や習熟度別授業の実施、漢字検定の受検級の見直しなどが課題である。 ・学習指導の工夫や、小テストの実施などにより、生徒の基礎・基本の確実な定着を図ることが
		学ぶ姿勢の確立とわかる授業の推進をする。	学習意欲に課題のある生徒への計画的な指導を行う。 授業参観や公開授業など、研修の機会を利用して自己研鑽に努め、授業を創意工夫する。	B A	
	国語	漢字検定試験を奨励する。	授業内において、漢字の読み書きに重点を置いて指導し、漢字検定試験合格へ導く。 漢字検定試験に向けた課外を実施し、文章読解力・表現力を養成しながら、国語への興味・関心を喚起するとともに、資格取得を目指す。	B B	
		基礎・基本の確実な定着を図る。	地理・歴史的素養を養うため、基礎的・基本的な知識を理解させるとともに、定期考査や小テストなどを実施して、知識の定着と習得を確認する。	A	
	地歴・	学習指導の工夫を図る。	幅広い教養を身に付けられるように、教材や資料の利用を工夫し、生徒が理解しやすい授業を行う。	A	

教 科	公 民		生徒の主体的な活動を促す工夫を行う。				
		学習意欲の向上を図る。	アクティブラーニングの要素を取り入れながら、生徒が意欲的に主体的に取り組める体制を作る。また、ルーブリックによる評価を取り入れ、生徒が意欲的に学習に取り組める評価を実施する。	B	B	できた。 ・ 今後は、生徒が意欲的に学習に取り組めるような評価を工夫したい。	
科	数 学	基礎・基本の確実な定着を図る。	学び直しの機会を設け、演習時間を十分に確保するなどして、基礎・基本の確実な定着を図る。	A	A	・ 考查前の勉強会、学期ごとの補講、数学検定の実施など予定通り実施し、効果を上げることができた。次年度も継続したい。 ・ 今年度は数学を受験科目とする大学進学者がいなかった。次年度に向けた指導の準備を徹底する。	
			定期的にノートやプリントを点検し、望ましい授業態度の習慣を身に付ける。	A			
			定期考查前の放課後に実施する勉強会や、長期休業中の成績指導を活用して、基本的な内容の理解を深める。	A			
			数学検定を春と秋の2回実施し、学習意欲を喚起するとともに、達成感を味わえるようにする。	A			
			進学者（大学進学・医療系）に対して必要な課外を行い、学力向上を図る。	B			
		わかりやすい授業の展開と学習指導力の向上を図る。	各種研究会・授業参観等に参加するとともに、教科内でも積極的に授業観察を実施し、授業内容・方法等について教科内で研究協議を行い、指導力を高める。	B	B		
	数学Ⅰでは少人数による習熟度別授業を展開し、きめ細かな指導を行う。また、その成果と課題を明確にし、改善を行う。		A				
	生徒同士が教え合う環境を作るなど、生徒が主体的に授業に参加できるよう指導の方法を工夫する。		B				
	理 科	基礎・基本の確実な定着を図る。	生徒の実態に合わせた教材を開発し、生活に役立つ基礎的な学習内容の定着を図る。	A	A		・ 主体的・対話的で深い学びの実現のため、身近な題材をもとにした実験・観察を積極的に取り入れた授業を行いたい。
			長期休業日や放課後の時間を利用し、成績指導を実施する。	A			
		学習指導の工夫に努める。	実験・観察・実習を積極的に行い、生徒が意欲的に学習活動できるようにする。	B	B		
			授業参観、公開授業等で学習指導の充実を図り、授業研究を推進する。	B			
		各種の発表会や研修会に積極的参加し、その結果を教科内で報告するとともに、自己研鑽に努める。	A				
保 健 体 育	基礎体力の向上を図る。	授業時に3分間走を実施する。体力テストの結果をもとに、個に応じた体力の向上を図る。	A	A	・ 主体的に取り組む姿勢についてより一層高めていくことが今後の課題である。 ・ 授業の工夫をし、体を動かし技能を高めていく環境を整え、生徒の体力向上につとめていく。		
	集団行動の徹底に努める。	集合、整列などの集団行動を徹底することで、協力し責任ある行動をとる態度を培うとともに、安全性への理解を深める。	A	A			
	スポーツの楽しさ、喜びを実感させる。	グループ編制を工夫し、各自の目的に応じた指導を行うことで、生徒が積極的に授業に取り組み、スポーツの楽しさ喜びを味わう態度を育てる。	B	B			
	健康、安全や性に関する学習に興味・関心を深める。	一般的な教養を身に付けられるように、教材や資料の利用を工夫し生徒が理解しやすい授業を行う。 健康・安全や性に関する興味・関心を深め、正しい知識を身に付けさせる。	A	A			
芸 術	心の教育の改善を図る。	各教材の指導を通して、自主的・意欲的に表現する態度を育成する。	B	B	・ 自主的・意欲的に取り組むための授業内容の改善並びに個々に応じた技能向上の指導工夫が必要である。		
		鑑賞の指導を通して、豊かな感性と心の教育を図る。	B				
		用具の準備・片付け等をきちんとする習慣を養い、学習態勢の整備に努める。	A				
	学習指導の工夫に努める。	生徒の能力にあった教材を精選し、内容の工夫・改善を図る。	A	A			
教 科	英 語	学習目標を明確にし、指導を工夫する。	生徒の習熟度を考慮した学習目標を設定し、CAN-DOリスト、年間計画を踏まえた「わかる授業」を展開する。また、ALTとのチーム・ティーチングでは、手法を工夫し、英語に対する関心を高め、生徒の表現能力の向上を図る。	A	A	・ 生徒の個々の力に応じた指導方法や指導の形態を検討していく。 ・ 学習アプリについても研修し、効果的な使用方法を検討していきたい。 ・ 表現力向上を目指したパフォーマンステスト、電子黒板やデジタル教科書の活用などは引き続き研究を継続していく。 ・ 英語検定試験受験に向けての資格取得支援制度についてPRし前向きにチャレンジする生徒を応援していく。 ・ 課外等をとおして大学や英検を受験する生徒への個別の支援を引き続き行っていく。	
		基礎・基本の確実な定着を図る。	苦手意識のある生徒でも前向きな姿勢で学習に取り組めるよう指導を工夫し、また支援するなどして基礎・基本の定着を図る。	B	B		
			学習につまずきのある生徒に対しては、放課後の個別指導や長期休業中の補講等を実施することにより、基礎的な学習内容の定着を図る。	A			
		個に応じた指導をする。	指導に適した教育環境・授業に取り組む態勢を整え、授業の大切さの自覚を促し、積極的に授業に臨めるようにする。また、ノート・プリントなどの提出物を随時確認し、学習の理解度を把握し、自主的な学習態度を涵養する。	B	A		
			少人数授業や習熟度別授業、チーム・ティーチングを展開し、個の語学力に応じた指導を通して、基礎・基本の定着・応用力の向上を図る。	A			
			授業内容の確認課題・週末課題に取り組むことで、英語を積極的に学ぼうとする姿勢を育成する。	A			
	課外も含めて進学や資格取得に向けて個に応じた指導をすることで、意欲の高い生徒をより伸ばせるようにする。		A				
	家 庭	生活的自立のために必要な知識および技術を身につけさせる。	副教材の資料集、ニュースや新聞などを活用し、生活で起こりうる課題について考え、生活における意思決定の選択肢の幅を広げることができるようにする。また、体験的な学習を実施し、より理解しやすい授業となるように工夫する。	B	B	・ 多様な生活環境にある生徒に要点が伝わりやすいように、視覚的な教材やワークシートを改善する。 ・ 生活課題を自分事として捉えることができるように発問や活動を工夫することが課題である。	
		実習では、個に応じた細やかな指導をする。	製作物に関しては、完成・提出することを重視し、作業進度に応じて個別にきめ細かな指導をする。実習工程を、パワーポイントと手元の実習日誌の両方で確認することができるようにする。	A	A		
	商 業 ・ 情 報	基礎的な知識・技術を身に付けさせる。	基礎的な情報リテラシーの能力の向上を図る。	A	A	・ 集めた情報を的確に伝える力の向上を図りたい。 ・ スマートフォンの使用上の注意など生徒に合わせた教材の提供をしたい。	
		情報社会に積極的に関わる態度を育成する。	ビデオ等を活用して、情報モラルの教育を積極的に推進する。	A			
		基礎・基本の確実な定着を図る。	ビジネス基礎、情報処理においては、基礎的基本的な学習内容の定着を図る。	A	A	・ 資格取得の有用性をより伝え、努力することの意義を伝えたい。	
資格取得を奨励する。		ビジネス基礎においては、資格取得を目標に意欲的に取り組む態度を育成する。 情報処理においては、資格取得を目標に意欲的に取り組む態度や応用力を育成する。	B B	B			

教 務	学習目標を明確にする。	各科目の単元ごとに目標を設定し、毎時の授業ポイントを踏まえて指導する。	B	A	・ 授業に関する研修、相互授業参観や公開授業等を充実させ、生徒の主体性を引き出す授業を目指す。 ・ コロナ感染症拡大の影響で、総合的な探究の時間を計画的に実施することが難しかった。 ・ 校務支援システムが改訂される予定であり、入力の方・注意点等の講習を充実させる。 ・ 教務部員の仕事の分担を工夫し効率的な業務を進める。		
		基礎・基本の確実な定着を図るために繰り返し学習することを怠らず、小目標の習得を重ねて、生徒に学ぶ喜び・知る喜びを感得させる。	A				
		生徒の習熟の程度と授業の進捗状況を常に意識し、必要に応じて内容・進度等の微調整を図る。	A				
	授業研究を推進する。	校内授業担当者の研修として、授業参観・公開授業等を実施し、相互の学習指導の向上に役立てる。	B	B			
		生徒が主体的・対話的で深い学びができるよう、授業の形態や内容を工夫する。	B				
	学習環境を整える。	授業におけるマナー指導（挨拶・服装・頭髪・態度等）を徹底し、自ら意欲的に授業に臨む体制を整える。	A	A			
	教育活動の公表に努める。	充実した内容のホームページや広報誌の更新・発行を通して、外部への広報活動を推進する。また在校生の状況・卒業生の動向等の報告を兼ねて、中学校訪問を充実させる。 ホームページの更新に関しては、ICT推進部との連携協力を密に行う。	A	A			
			学校情報セキュリティの向上に努める			A	
	生徒指導	基本的な生活習慣を身に付けさせる。	授業の充実を目指し、授業担当者は、授業態度・基本的生活習慣の指導を徹底するとともに、体調・時間管理能力の向上を図る。	A		A	・ 「当たり前前のことを当たり前にできるようにする」という基本理念の下、基本的生活習慣の確立とルール・マナーの遵守を徹底させるために全教員が指導に協力してくれていることに感謝したい。次年度も引き続き粘り強い指導をお願いしたい。 ・ 外国人生徒の増加に伴い、外国人生徒の指導案件が増加した。
			各学年と連携して、毎日昇降口での朝の登校指導を実施し、挨拶の励行、服装頭髪等の規則遵守及び遅刻防止に努める。	A			
教務部及び各学年と連携し、放課後に遅刻した生徒の事後指導を毎日実施し、遅刻防止に努める。 また、集会等でSNSについての正しい理解と使い方の指導をする。			A				
各学年と連携して、定期的に登校時及び下校時の校外指導を全職員輪番で実施し、登下校時の交通マナー及び校外での生活態度等の確立を図る。			A				
各学年と連携して、ルール・マナーの遵守を徹底させる。ルール・マナーを遵守できない生徒に対しては毅然とした態度で臨み、学校全体で組織的に指導する。			A				

		服装頭髪検査で指導対象となった生徒について、事後指導を徹底する。	A		外国人生徒に対する注意喚起を強化していきたい。 ・指導についての保護者の理解と協力を得るために家庭への連絡を密にすることがトラブル防止の肝になるので、引き続き些細なことでも家庭への連絡を密にしていきたい。		
		学校生活を送るうえで特に課題のある生徒について、保護者を交えて指導するなど、家庭との連携を密に図る。	A				
		スクールカウンセラーと連携して、精神面で不安や問題を抱える生徒・保護者に対してカウンセリングを実施し、状況の改善を図る。感情をコントロールする能力や自制心の向上を図る。	A				
		制服の正しい着用指導に重点を置き、特に女子の適正なスカート丈について指導を徹底する。	A				
	喫煙防止、薬物使用防止についての意識を高める。	薬物乱用防止の講演会等を開催して、意識の向上を図る。	A	A	・事故防止の観点から、交通ルール・マナーの遵守の徹底も引き続き行っていきたい。		
		保健体育科と連携して、保健の授業での指導を図る。	A				
	交通マナーについての意識を高め、交通事故を防止する。	交通安全講話を開催して、交通ルール・マナーに対する意識を高める。また、各学年及びHRでも交通ルール・マナーの周知徹底に努める。	A	A			
		自転車点検及びバイク点検を定期的の実施し、安全運転を励行する。	A				
		バイク通学者には安全運転への意識の向上を図るために定期的に声かけを行う等指導を徹底する。	A				
進路指導	早期からの進路意識の醸成を図るとともに、計画的なキャリア教育を実施する。	進路ガイダンスや外部講師による講演、進路別説明会や体験授業を通して、適切な進路情報を提供するとともに、働くことの意義や職業についての理解を深める。	A	B	・ミスマッチに気づき、進路を変更する生徒が何人か出た。早い時期からオープンキャンパスや会社見学への参加を促す必要性を感じた。 ・経済的な理由で上級学校合格を辞退せざるを得ない生徒が出ないよう、引き続き、計画的な学費の準備を呼びかける必要がある。 ・資格取得に対する支援制度があることをPRし、より多くの生徒がチャレンジできるようにしたい。 ・進学・就職ともに、難しい進路にチャレンジする生徒への指導・支援を充実させたい。		
		職業適性検査、クレペリン検査、SPI検査等を実施し、生徒の適性を把握して試験に備える。	B				
		基礎力テストや模擬試験などを実施し、学力の向上を目指す。	B				
		「進路の手引き」や「進路便り」発行して、情報を提供し、ホームルームや面談で活用できるようにする。	A				
		生徒が必要な情報や資料を得られるように、進路教室を整備する。	B				
	望ましい勤労観・職業観の醸成を図る。	ハローワークや市と連携して、望ましい職業観・勤労観を醸成し、ミスマッチや早期離職の防止に努めるとともに地域に貢献できる人材を育成する。	A	A			
		2年生全員のインターンシップを実施し、仕事や自己の適性を知る機会を与える。	A				
		就職希望者に企業見学を実施し、一人一人に合った進路の実現を支援する。	A				
		マナー講習会を実施し、社会人として必要な礼儀作法や身だしなみについて学ぶ。	A				
	進路目標の実現を図る。	進路希望調査を実施し、生徒の希望進路や適性を把握し、生徒の実情に合った進路行事を企画する。	A	A			
		就職試験対策・推薦入試対策として、面接指導や小論文指導を実施する。	A				
		オープンキャンパスや看護体験、公務員講座等の情報を提供し、積極的な参加を促す。	B				
		企業人事担当者、進学先入試担当者とのコミュニケーションを積極的に図り、進路情報の収集を行い担任や生徒に提供できるようにする。	A				
情報処理検定や英検・漢検などの資格の取得の大切さを指導する。		B					
保健厚生	教育環境・生活環境の美化、整備を図る。 健康維持・増進の意識向上を図る。	各学年及び各クラス輪番で、通学路や校舎内外の清掃をすることによって、地域社会との連携を目指し、美化意識の高揚を図る。また、感染症対策を徹底し、衛生管理に務める。	B	A	・受診勧告者に関しては家庭の協力が欠かせないため、三者面談の機会を利用して受診の重要性について理解を得た。 ・防災訓練、救急救命講座については今年度も消防署との連携が困難だったが、オリジナル動画を制作するなど工夫して実施できた。来年度は体験型の訓練が実施できるように期待したい ・昨年度よりカウンセリング実施者が増えたが、担任とスクールカウンセラーが連携して迅速に生徒のケアができるように対応できた。来年度は回数が増えるので、生徒のみならず教職員にも利用を呼びかけたい。 ・通学路清掃の実施回数、実施方法を再検討する。		
		校内の安全管理・点検の実施により、学校事故の未然防止に努める。	A				
		検診・検査等の実施を通して、健康管理の大切さを意識できるようにするとともに、受診率の向上に努める。	A				
	生命の大切さを学ぶ。	性教育講演会を実施し、性に関する正しい知識の定着や適切な意思決定・行動選択ができる実践力の育成を図る。	A	A			
		健康相談や落ち葉清掃を通して、生命の尊さや心の健康の大切さについて学べるようにする。	A				
	健康維持・増進の意識向上を図る。	救急救命講習を実施し、人命救助の正しい知識を学ぶ。	B	B			
	生命の大切さを学ぶ。	防災訓練を実施し、訓練の重要性を認識できるようにするとともに、防災意識の高揚を図る。	B	A			
		カウンセリングを活用し、生徒の心のケアに努め、自己解決能力の涵養を目指す。	A				
	特別活動	生徒の読書活動の推進を図る。	広報活動を充実させ生徒の図書館来館者の増加を図る。	A		A	・季節行事にとどまらず、生徒の意見を尊重し、有志者によるPOPづくりやポスターコンテストなどを実施し、さらなる図書館利用活性化を目指す。 ・ICT環境の整備に伴い、視聴覚教材の需要が低下した。今後は外国人生徒支援、教育相談関係の書籍、資料を関係各所と連携しつつ充実させていきたい。
			蔵書や資料を更新し館内を整備し、生徒・職員が利用しやすいよう工夫する。	A			
季節行事を通して生徒に教養を身に付けさせるとともに、読書への興味・関心を涵養する。			B				
視聴覚教材を充実させ活用を促す。		視聴覚教材を充実させるとともに、授業で活用しやすいよう工夫する。	C	A			
委員会活動を通して、生徒の自主性を促進する。		「図書館だより」の制作を生徒に担当させ自主性を促す。	A	A			
		図書委員を生徒図書委員会の研修会に参加させる。	A				
資料の収集・保管に努める。		一般紙やPTA新聞、学校内の出版物の保管をする。	A	A			
生徒会・各種委員会活動の充実を図る。		生徒会役員と各種実行委員との連携を深め、生徒が主体的に取り組めるような行事運営を目指す。	A	A			
		生徒会・各種委員会毎に活動計画を作成させ、目標達成の意識を高め活性化する。	A				
部活動の活性化を図る。		新入生を対象に、部活動紹介・見学会を行い、1年生の加入率3割を目指す。	B	B			
		インターハイ予選前に運動部壮行会を行い、部活動への参加意識の高揚を図る。	B				
学校行事の充実を図る。		学校行事の内容を改善し、生徒のモチベーションを高めるよう創意工夫する。	A	A			
		企画・運営を生徒会や実行委員会が中心になって行い、生徒が多様な主体的・対話的で深い学びが得られる参加型を目指すように工夫する。	A				
ホームルーム活動の充実を図る		学年や各校務分掌と連携し、生徒がペアワークやグループワークを通したLHRの活用を促す。	B	B			
渉外	PTA活動の啓発を図る。	研修旅行や交流会を実施し、保護者・教職員の研修並びに交流を推進し親睦を深める。	A	A	・行事のPR方法の工夫を行い、参加者の増加に努めたい。 ・行事について、保護者が興味・関心を持って参加しやすい内容になるように検討していきたい。 ・部会での打ち合わせを密に行い情報を共有していきたい。		
	PTAによる生徒指導体制の確立を図る。	PTA広報誌「自彊」を年1回発行し、PTA活動の状況、生徒の現況、学校からの連絡等の広報活動をする。	A	A			
	基本的生活習慣を確立するとともに規範意識を高める。	欠席・遅刻・早退を減らすために健康管理と規則正しい生活ができるよう指導する。特に、3点時間(起床・就寝・家庭学習開始)を固定できるよう、保護者と連携しながら支援していく。	A	A			
	PTA活動の啓発を図る。	人間関係づくりの基本である気持ちの良い挨拶を励行し、時と場に応じた立ち振る舞いや言葉遣いができるようにする。	B	B			
		自己中心的なものの見方・考え方をするのではなく、良識ある社会人へと成長できるよう、きまりやマナーを守り、仲間と協調して自己を高めることへの大切さに気付けるようにする。	A				
ICT教育推進	学校情報セキュリティの向上に努める。	人的・物的両面から個人情報の保護を徹底できるようにする。	A	A	・タブレット端末の利用環境の簡素化を行いたい。 ・情報機器活用を手段を教員間で共有できるようにしたい。		
	タブレット端末等の管理及び利用の推進を図る。	タブレットおよび電子黒板の利用環境を整備し、主体的・能動的に学習できるよう情報共有を行う。	A	A			
	情報リテラシーの向上を図る。	基礎的な情報リテラシーの向上を図る。	A	A			
第1学年	基本的生活習慣を確立するとともに規範意識を高める。	きまりやマナー違反及びSNS上も含めて他者に迷惑をかけるような行動に対しては、毅然とした態度で臨み、学年全体で組織的に指導する。	A	A	・きまりやマナー等の生活習慣についてはHR等において継続的かつ効果的な指導ができた。 ・家庭への連絡を密にすることで、保護者の理解を得ることができた。 ・個に応じた学習環境や指導方法		
		身だしなみ(制服の着方・頭髪等)について日常生活のあらゆる機会を通して指導をしていく。また、必要に応じて生徒指導部と連携を図り、落ち着いた学校生活を送れるようにする。	A				
		保護者への連絡を密にし、生徒・保護者と教員が意思疎通を図りながら信頼関係を構築し、生徒の望ましい成長を支援する。	B				
	基礎・基本の確実な定着と学習意欲の向上を図る。	学び直しの時間を設け、既習内容の復習と苦手意識を克服させることで、高校への学習にスムーズにつながれるようにする。また、個に応じた指導ができるよう授業担当者間で共通理解を図る。	A	A			
		授業に集中して取り組めるよう学習環境を整え、授業担当者と連絡を密にとり、家庭学習課題にも誠	A				

		実に取り組む姿勢を涵養する。			が整うなかで、生徒の学習に対する意識をどれだけ引き上げられるかが課題である。 ・進路ガイダンスや見学会、体験を通して、自己の進路を真剣に考える姿が見られた。 ・外国人生徒や保護者に対しては、言葉の翻訳だけでなく、日本的な考え方を理解して、スムーズな生活ができるように、粘り強く対応していく必要がある。
		生徒が主体的に学び、「分かる授業」が展開できるよう教授法や指導内容を工夫・改善する。	A		
	将来や適性について考え、自己に合った進路選択につなげる。	進路ガイダンスや進路見学会、HRでの進路学習や面談、PA活動を通じて、自己理解を深め、自分の進路について真剣に考え、適正な進路選択ができるよう支援する。	A	A	
		就職試験や各種検定試験に向けて、自主的な学習ができるよう意識の高揚を図る。	B		
		生徒や家庭が個々の希望に合った判断ができるよう、進路の手引きを活用するなど適宜進路情報を提供する。	A		
外国人生徒への支援につとめる。	授業や学校生活全般をスムーズに行うため、県や外部団体と常に連絡をとりながら学年全体で共通認識を図る。		B	B	
第2学年	基本的生活習慣を徹底する。また、規範意識の高揚を図る。	家庭と連携し、欠席、遅刻、早退をせず、毎日規則正しい生活が送れるよう支援する。	A	B	・校外学習の機会が多くあったため、公共マナーを守るとともに規則正しい生活が送れるようになってきた。 ・服装頭髪等の乱れも改善され、自分を良くしようとする気持ちが行動に表れている。 ・他を思いやる気持ちを欠くことで招くトラブルがあり、次年度以降引き続き指導が必要である。
		公共マナーや社会規範、校則等のきまりを遵守し、日常生活や学校生活が安心して送ることのできる態度を育てる。	B		
		毎日の清掃や奉仕活動、委員会活動やHRでの役割に責任を持って取り組む姿勢を身に付けさせる。	A		
		道徳教育を通して他者を尊重する態度を養う。	B		
		学年集会やHRでの服装頭髪指導を通して「身だしなみを整え、制服を正しく着る」ことができるようにする。	A		
		気持ちのよいあいさつが人間関係づくりの基盤となることを自覚させ、時と場に応じた言葉遣いや行動ができるようにする。	B		
		日常のあらゆる機会を通じて、自分と違う価値観を持っている相手に対しても、多様性を認め、尊重し合える寛容な心を育む。	B		
	学習意欲の向上と基礎・基本の確実な定着を図る。	日々の授業を大切にし、集中して取り組ませることや基礎的な内容を繰り返し学習させることで基礎・基本の確実な定着を図る。また、個に応じて発展的内容にも積極的に取り組ませ、学力の向上を図る。	A	A	・各教科やHRにおいて、個に応じた指導や対応が十分であった。 ・教員間の情報交換も密であった。
		個に応じた指導ができるよう担任と科目担当者間の連絡を密に取る。また、必要に応じて情報交換をしたり科目担当者会議をしたりして、生徒の学習状況に係る共通理解を図る。	A		
	具体的な進路の目標を決定し、その実現に向けて努力しようとする意識を高める。	将来の自分の在り方生き方を見つめ、どのような人生を送りたいかを考えることで正しい進路選択ができるようHRや面談等を通して支援する。	A	B	・インターンシップや進路行事を利用し、自らの進路実現に向けた目標を見いだせるようになった。 ・具体的な取り組みについては不十分であるため、個別指導を充実させることが次年度の課題である。
		インターンシップや進路行事及びHRでの進路研究、進路の手引きの活用を通して、職業や進学先に対する情報を得ることで進路の目標を具体化できるようにする。	A		
		就職試験サポートドリルを活用し、就職試験に対応できる力をつけられるようにする。また、各種検定試験に向けて自主的・自発的に学習に取り組めるようにする。	B		
		進学希望者がより高い目標を持って学習に取り組めるよう、進路情報を適宜提供し、個別指導を充実させる。	B		
	部活動・委員会活動や学校行事で中心的役割を担えるようにする。	修学旅行を実施するにあたり、授業や総合的な探究の時間等を活用し、事前・事後学習を行い、教育的効果を高める。	A	A	・学校行事が集中し学習効果を高めるための時間の確保が難しかった。 ・各行事や委員会等において生徒の積極的参加が見られた。
		クラスマッチや自彊祭などの学校行事に主体的な態度で臨ませることにより、自己有用感が高められるようにする。また、部活動や委員会活動の意義を示し、積極的な参加を促す。	A		
第3学年	基本的生活習慣の確立及び規範意識の更なる高揚を図る。	欠席・遅刻・早退を減らし、規則正しい生活が送れるよう指導の徹底を図る。家庭とは連携を密にし、必要に応じて保護者と面談するなどして指導の徹底を図る。	A	B	・欠席・遅刻した1日当たりの人数は、2学年の時より増えていた。 ・このため、保護者とは、密に連絡を取り合い、生活習慣の改善に向けて合意形成を図っていった。
		ルールやマナー違反に対しては毅然とした態度で接し、学年全体で組織的に指導できるようにする。	B		
		頭髪服装検査を毎月1回実施する。また、言葉遣いや態度等の指導を徹底する。継続して観察・指導を行い、必要に応じて生徒指導部と連携を図る。	B		
		学校と家庭が連絡を密にしながら協力していくことにより、生徒や保護者との信頼関係を構築し、生徒の成長を支援する。	A		
	学習意欲の向上を図るとともに、社会人として必要な学力を身に付ける。	一般常識ドリルの確認テストを「総合的な探究の時間」に実施し、基礎・基本の確実な定着を図るとともに一般常識を身に付ける指導を徹底する。	A	A	・一般常識の確認テストを、各回とも2回ずつ実施した。各回とも平均点が向上し、確実に社会人として必要な学力を身に付けさせることができた。
		社会人として必要な学力の必要性を自覚させ、自ら学ぶ姿勢を育む。必要に応じて授業担当者会議を開催し、教員間の共通理解を図る。	A		
		教室の巡回指導を実施するなどして、生徒が安心して学習に取り組めるよう環境を整え、落ち着いた中で授業に取り組ませる。	B		
	希望進路実現に向けた指導に努める。	各ホームルームで「進路の手引き」を効果的に活用し、進路意識の高揚を図る。進路実現に向けて個々にあった的確な助言、援助を行うことで、自ら努力する姿勢を育む。	B	A	・志望動機の作成や面接の練習などについての的確な援助・助言を行った。 ・必要に応じて課外授業を実施するなど、個に応じた進路指導を行った。
		希望進路実現の助けになるよう、英検、漢検、数検、情報処理検定、ビジネス計算検定などの資格を積極的に取得させる。	A		
		Bコース（大学進学希望者コース）に対して、課外授業や模擬試験等を実施し、積極的な進学対策を推進する。また、Aコース（就職・専門学校希望者コース）の希望者には、放課後の課外を実施する。	A		
	充実した学校生活を送る指導に努める。	クラスマッチや自彊祭などの学校行事に積極的に参加させ、ふりかえりの時間を十分とることで級友とのコミュニケーション能力を高められるように指導する。	B	B	・生徒の悩みの解決に向けて、生徒の声を傾聴し、状況に応じてSCに相談した。
		担任との二者面談やスクールカウンセラーとの面談を活用して、悩みを抱える生徒の問題解決の援助をする。	A		

※評価基準：A；十分によい　　B；よい　　C；やや不十分　　D；不十分